

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 7 (2025) 年 5 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>
受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月 1 日

変革の時代に求められる診療情報管理士の専門性

荒井 康夫

北里大学 未来工学部データサイエンス学科・大学院未来工学研究科 准教授
日本診療情報管理学会 副理事長

病院経営の厳しさが深刻化している。日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会が実施した 2023 年度の病院経営定期調査によると、病院の 53.4%が医業収支において赤字である。近年は「増収減益」の傾向が続き、わが国の医療は病院経営の健全化が重要な課題となっている。特に、労働時間の抑制や医療材料費の上昇などが病院経営を圧迫しており、多くの医療機関がコスト削減や収益改善に取り組まざるを得ない状況にある。加えて、医師・看護師の確保が困難となり、診療機能の縮小や閉院に追い込まれるケースも増えている。

この状況下で、病院経営には医療の質を維持・向上しながら、持続可能な医療体制の確立が求められている。医療現場では、正確な診療情報の収集・整理を通じて、患者に適切な診療ケアを提供してきた。病院経営においても、ピーター・ドラッカーの「測定できないものは改善できない」という言葉のとおり、診療情報を活用し、現状を可視化・分析し、改善策を講じることが重要である。診療情報の精度向上と適切な活用により、科学的根拠に基づく客観的な判断が可能となり、質の高い医療の提供と持続可能な経営の実現につながる。診療情報は、医療の質向上と経営の安定化に不可欠な資源である。

一方、医療 DX の進展に伴い、AI やデータ解析技術の導入が進み、これらを適切に活用することが求められている。多職種が連携し、診療情報の共有を基盤としたチーム医療も推進されている。そして、多施設間の情報共有が進む中、在宅医療や地域医療との連携強化、臨床研究へのデータ活用の促進も急務となっている。

診療情報の管理・活用を担う専門職の必要性が一層高まり、診療情報管理士は「医療の意思決定を支える架け橋」としての役割を果たすことが期待されている。単なる記録管理者ではなく、診療情報を積極的に活用することが求められている。「知識は力なり」-フランシス・ベーコンのこの言葉のとおり、医療における課題を正しく理解し、診療情報を適切に活用することで、医療の未来をより良いものにできるだろう。診療情報管理士は、この変革を前向きに捉え、情報の価値を最大限に活かしてほしい。そして、多職種と連携し、より良い患者中心の医療の実現していくことを期待する。